

VLED 第 2 回技術委員会

議事録（案）

1. 日 時 平成 27 年 9 月 14 日（月） 16:00～18:00
2. 場 所 YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所 6F 大会議室
3. 出席者 主 査：越塚登（東京大学大学院情報学環 教授）
副主査：武田英明（国立情報学研究所 教授）
委 員：平本健二（経済産業省 CIO 補佐官）、中尾彰宏（東京大学大学院情報学環 教授）深見嘉明（立教大学ビジネスデザイン研究科 特任准教授）
社 員：KDDI、電通、日本アイ・ビー・エム、日本電気、日本電信電話、日本マイクロソフト、日立製作所、富士通、三菱総合研究所（事務局）
自治体会員：横須賀市
オブザーバー：総務省、内閣官房 IT 総合戦略室、国立国会図書館
事務局：三菱総合研究所、YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所
4. 配布資料 資料 2-1 第 1 回技術委員会議事録
資料 2-2 他の委員会の開催状況報告
資料 2-3 オープンデータガイド(活用編)・ツール集の構成と編集環境案
参考資料 2-1 2015 年度第 2 回技術委員会 座席表
参考資料 2-2 2015 年度第 2 回技術委員会 委員名簿
参考資料 2-3 オープンデータガイド(活用編)記事例
参考資料 2-4 データの利活用・公開に有用なツール集記事例
5. 議題
 1. 他の委員会の開催状況
 2. オープンデータガイド(活用編)で扱う技術的課題とシナリオ
 3. データの利活用・公開に有用なツール集の構成
 4. オープンデータガイド(活用編)・ツール集の編集環境
 5. 意見交換
6. 決定事項
 - GitHub 上でガイドの編集・公開を行う。
 - GitHub が利用できない方向けに、原稿執筆依頼も並行して行う。

- 各社で、自社の原稿投稿規定を確認しておく。
- 自治体へのアンケート内容を吟味する。
- 次回開催日程を事務局がメールで調整する。

7. 議事録

(1) 前回議事録確認

- 要約した内容であらためてお送りする。

(2) 他の委員会の開催報告

- 前回の技術委員会以降は、特にほかの委員会は行われていない。
- 「地方創生に資するデータ活用プラン」の採択決定を行った。20件の応募に対し、4件(「信州大学/塩尻市」、「日本IBM/川越市」、「日本ユニシス/横浜市」、「福井県情報システム工業会/福井県」)を採択した。
 - 全体へのフィードバックは行われる予定か。
 - フィードバックは行う。運営委員会や推進委員会などで情報共有したい。

(3) オープンデータガイド(活用編)とデータの利活用・公開に有用なツール集の編集方針

- GitHubを利用して編集・公開する方針を進めたい。
- GitHubによる共有の仕組みはよい。
- 各社のセキュリティポリシーで、GitHubが使えない場合があるかもしれない。
- 執筆した内容の著作権の譲渡(もしくは改変の許諾)について、法務に確認が必要。
- GitHubが利用できない方向けに、通常原稿執筆依頼に相当するものも用意しないといけない。
- 自社の著作物の改変ができない場合は、当該著作物へのリンク情報だけを掲示するなどの対策が必要。原稿投稿に関して自社の規定を確認すべき。
- CCライセンスで出せるものをGitHubで管理するのはよいが、それが難しい場合は原稿執筆依頼をするなどして、総務省への納品で問題がないように切り分けたい。

(4) オープンデータガイド(活用編)で扱う技術的課題とシナリオ

- 「転居先情報」ではなく「住環境マップ」などに変更すべき。
- シナリオは誰が、どういう目的のために、どうしたい、ということ为例に入れたほうがよい。
- 誰が関与するのかを構造化したほうがよい。オープンデータで問題解決をするための導入シナリオがあればよい。
- 担当部署に入ってきたばかりの自治体職員に利用していただけるように、オープンデータを使う初心者が、目的にあわせて探せるようにすべき。
- シナリオに出てくるステークホルダーの関係を明確にして、内容をよく吟味すべき。
- ステップ・バイ・ステップで、そのとおりにやればできるような入門的なものにすべき。

(5) データの利活用・公開に有用なツール集の構成

- 利用者属性(PC が使える、Linux アプリのインストール経験がある等)を表示すべき。
- クラウドのここにあるものを落とせばよい、というくらいの簡単さになっていたほうがよい。
- 代表的なものはそれでよい。一方、社員の方が提供されるツールについて、有償版/無償版をクラウドで提供していただけるとよい。
- 頻繁なバージョンアップに対応するため、ツールは厳選すべき。この CKAN の説明は細かくフォローされてよい。
- ツールの内容、有用性に応じて、CKAN のように細かく説明するものと、リンク集程度の内容にするものに分かれる。
- 自社のツール紹介をまとめておく。寄与したいので、何をすればよいか確にしてほしい。

(6) 意見交換

- 途中経過をメールで連絡してほしい。
- 担当している自治体からは基本的なことからレクチャーしてほしい、という要求がある。
- 自治体の情報部門の方は、データを公開する意義を庁内で説明するのに苦労している。データ公開の有用性を説明する資料になるとよい。
- 自治体のどの部門にアンケートをするかも重要。また、ツール集に掲載するツールの選定/評価基準も議論できればよい。
- オープンデータやビッグデータを自治体として取り組むためのツールとして利用できることを期待している。自治体の立場としてフィードバックしていきたい。
- オープンデータの利活用事例を見せることで、まだ取り組んでいない自治体が取組易くすることは大事。なお、各社のセキュリティポリシーに配慮して、ミラーサイト/クローンサイトを用意してもらえるとよい。
- 想定読者層を明確にして進めてほしい。事務局から、具体的なスケジュールを社員へ提示してほしい。また、データ形式についてもアンケート時に確認してほしい。
- 自治体の中にいる熱心な人から、よいツールについて相談を受けている。GitHub でそうしたツールが集まるとよい。

(7) その他

- 次回委員会は、12 月上旬を目安として事務局がメールで調整する。場所は、YRP コビキタス・ネットワークワーキング研究所 6F 大会議室を予定。

以上